



# 鶴の便り 鶴の便り

## 第七回

### おきたま語りフェスティバル

六月二十六日(日)おきたま語り部の会(渡邊記美子会長)主催の「第七回おきたま語りフェスティバル」が、夕鶴の里語り部ホールで開催されました。

渡邊会長の挨拶で開会し、たかはた地区語り部の会の佐藤邦夫さんが、「貧乏神」を語り、会が始まりました。その後、各語り部の会の代表が、地区の伝説民話や、笑い話、伝承民話などを、次々と語り、入場者は、笑ったりうなづいたりしながら、民話の語りを堪能されていました。

その他に、子どもたちにも、民話に関心をもち次世代への語り手となってくれることを願い大舞台で語ってもらいました。

夕鶴の里資料館報  
平成28年7月20日  
第 67号  
発行 夕鶴の里  
TEL 47-5800



今回は、米沢の愛宕小学校と、高島小学校の児童に語ってもらいました。感情豊かに堂々と語り、しかも、可愛らしさも兼ね備えているという、子どもならではの語りを披露してくれました。

最後は、平野昔語りの会による寸劇「むかさり」。三人のやり取りが、絶妙で、会場は笑いの渦で大いに盛り上がっていました。

## 出演者と題目

- 一、佐藤邦夫 『貧乏神』  
(たかはた地区語り部の会)
- 二、島田梅 『寝言兄弟』  
(高島小学校二年生)
- 三、佐藤吉雄 『子狸の恩返し』  
(二井宿語り部の会)
- 四、津田悠羽『ムカデの医者むかえ』  
(愛宕小学校四年生)
- 五、加藤芹夏 『猫の恩返し』  
(高島小学校三年生)
- 六、滝沢周平 『酒のかごぬけ』  
(高島小学校五年生)
- 七、安部ヤスエ 『葦沼の大蛇』  
(話部「ゆるり座」)
- 八、鈴木ゆり子 『へらへらのへら』  
(川西昔ばなしの会)
- 九、浜田節子 『馬のまつり』  
(長井小町の会)
- 十、上村容子『孝行車』  
(まほろば語り部の会)
- 十一、松橋信子 『大淵の怪』  
(民話会ゆうづる)
- 十二、高橋弘子『おんさろおぼけ』  
(鮎貝語り部クラブ)
- 十三、小川礼子『上杉様の白ぎつね』  
(米沢とんと昔の会)
- 十四、柿間秀昭『白竜湖の琴の音』  
(夕鶴の里友の会)
- 十五、青木・佐藤・高橋・高世  
寸劇 『むかさり』  
(平野昔語りの会)

◎出演いただいた皆様、素晴らしい語り、ありがとうございました。

## 夕鶴の里友の会研修会

六月十九日(日)、夕鶴の里友の会では、宮城県村田町方面への研修会を行いました。

当日は好天に恵まれ、一路村田町に向かい、車内では過去の研修会の場所や、参加状況など、思い出話で大いに盛り上がりました。

最初の見学地の村田町「歴史みらい館」では、館内見学と村田町の歴史を伝える映像を鑑賞しました。

その後、日本一の夫婦水車がある姥ヶ懐 民話の里に移動しました。萱葺きの民話伝承館で地元の語り部真壁さん(七十七歳)の語り「伝説・渡辺の綱物語」や、姥ヶ懐地区の歴史を聴きました。そのあと手打ちの「天ざるそば」を食べました。

車窓から、歴史建造物群の蔵の町並みを見学しながら移動し、最後の見学地は、伊達政宗の家臣、片倉小十郎の居城白石城。天守閣まで登った方は、見晴らしもよく、

爽やかな風が抜け、大変心地良かったと言っていました。



## 蚕の飼育

# 蚕がいっぱいな繭になりました!



六月八日(水)から、飼育を始めた蚕が、あっという間に成長し、六月末には、各々が、「まぶし」の中に納まり、全ての蚕が繭になりました。その後出来上がった繭を、まぶしから、剥がして、乾燥機で、乾燥させました。

夕鶴の里で飼育した繭は、染織り講習会で、真綿を作り、マフラーの一部になります。他の施設では、繭を煮て、糸を取ったり、繭玉を切つて、くつつけたりして、お花のブローチや、動物などを作っているようです。

## 染織り講習会

かつて、製糸業の地域として栄えた事に鑑み、真綿を染色し、織りの伝統技術に触れ染織りの楽しさ、素晴らしさを体験していただく染織り講習会が、今年も始まりました!

市内外から二十八名が参加。四回の講習で、青苧と赤苧それぞれで真綿を染色し、染めた真綿を紡いで、マフラーを織り上げます。



初回は、織物工芸家の川合ひさ子氏より、指導を受けてマフラーのデザインを考案。その後、高島町の安部吉数氏の指導で、上記の繭を煮て、真綿をつくりました。初心者が多かったのですが、スムーズに繭から蛹をとりだし、丁寧に引き伸ばし、きれいな真綿が完成しました。

## 社会人力育成講座

第三回目は、六月二十五日(土)に、そば打ち体験を行いました。毎年、年越しそばを打っているという受講生もいましたが、冷たい蕎麦なので、細く切るのが、とても難しかったです。と感想を述べていました。

最後の講座では、午前中、機織り体験を行い、各自コースターを織りました。さすが、大学生!すぐに、コツを覚え、あっという間に織り上げて、色とりどりのコースターが完成しました。

午後は、今まで練習してきた話りの発表です。受講生は、家族や、講師が見守る中、なれない方言を、巧みに使いこなし、堂々とした語りを披露しました。約2ヶ月間、お疲れ様でした。



最後の指導を受けた後、語りの発表をして、講座を終了しました。

## 語り部養成講座

〜講演会〜

夕鶴の里 第十七回語り部養成講座(自主事業実行委員会)として、七月十七日(日)、午後一時三十分より「渡部豊子」さんを講師にお迎えし語り&トークの講演会を開催しました。

講師の渡部さんは、新庄市在住で、新庄民話の会、日本民話の会会員として活躍されています。伝承の語り手としてこれからも数多くの子供達にたくさん昔話を語ることを目標としているそうです。

「みなさん、何度も先生、先生と私を呼んでますが、私は、ただ、新庄弁で語るだけ。いつもは、孫の尻追いでいる、ただのばあちゃんです。」と、気さくに挨拶され、会場が和やかにになりました。

子どもの頃、おらえのばんちゃしか、知らない話かと思っていたのに、大人になったらどこにでもある話だった・・・と前置きし、「ぼだもち蛙」を新庄弁で語り始め、民話や、渡部氏自身の語りのあり方、想いなどを、語ってくださいました。



こかんすかひん  
どねえつげ